

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

<p>学会名</p>	<p>The 59th Annual Meeting of the Japanese Society of Plant Physiologists, 2018 (March 28-30, 2018, Sapporo Convention Center, Sapporo, Hokkaido) 日本植物生理学会2018（平成30年）第59回大会 (2018年3月28-30日、札幌市、札幌コンベンションセンター)</p>
<p>演題名</p>	<p>Identification and functional analysis of OPDA reductase (OPR) gene of <i>Euglena gracilis</i> (ユーグレナにおけるジャスモン酸合成酵素OPRの同定と機能解析)</p>
<p>発表者</p>	<p>★Shota Kato, *Masashi Nakamura, ★Koji Miyamoto, <u>Emi Yumoto</u>, <u>Kenichi Uchida</u>, <u>Takao Yokota</u>, <u>Hisakazu Yamane</u>, <u>Tomoko Shinomura</u> ★加藤翔太、*中村将志、★宮本皓司、湯本絵美、<u>内田健一</u>、<u>横田孝雄</u>、<u>山根久和</u>、<u>篠村知子</u> 帝京大学 (*H29年度植物分子細胞学研究室の卒研生、★本学の博士研究員) 【植物分子細胞学研究室】</p>
<p>内容</p>	<p>微細藻類の一種である<i>Euglena gracilis</i> のジャスモン酸合成系の遺伝子を藻類で初めて見出し、本研究室の加藤翔太博士研究員が日本植物生理学会第59回大会（2018年3月28-30日、札幌市、札幌コンベンションセンター）報告しました。高等植物のジャスモン酸合成経路においてOPDA還元酵素として働くことが知られているOPRのホモログを<i>Euglena</i>のEST配列から6個見出し、EgOPR1-6と命名し、その遺伝子群のクローニングを行い、OPRの活性のある遺伝子を特定した結果を示しました。 本研究の一部は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」、および科学研究費補助金(基盤研究C)の支援を受け、H29年度の本研究室の卒研生と共同で研究を行いました。</p>
<p>関連画像</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>